**平成28年度　第２回アートを活かした障がい者の就労支援事業企画部会**

**議事概要**

日　　時：平成29年３月８日（火）13:00～15:00

場　　所：プリムローズ大阪４階「松寿」

出席委員：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（五十音順・敬称略）

今中　博之 社会福祉法人 素王会　理事長

坂本　ヒロ子 社会福祉法人 大阪手をつなぐ育成会　理事長

鈴木　京子 ビッグ・アイ共働機構（国際障害者交流センター） 事業プロデューサー

（事業企画課長）

高市　純行 毎日新聞社 総合事業局 事業企画委員

殿村　壽敏 社会福祉法人 精神障害者社会復帰促進協会 理事長

福島　治 福島デザイン

藤原　明 りそな総合研究所株式会社 リーナルビジネス部長

山口　孝 ギャラリーヤマグチ　クンストバウ

**議事１　平成28年度の事業実施結果について**

資　　料：

資料３　　平成28年度の事業実施結果について

**主な意見等：○委員　　◆事務局**

**＜第６回公募展の実施結果について＞**

○　最優秀賞受賞者が福祉基金による助成対象の取組みで支援する作家であることに、問題ないか。

【⇒事務局回答】

　　問題ないと考える。福祉基金による助成対象の取組みで支援する作家は、公募展入選作家を中心に選定することとされているので、むしろ喜ばしいことだと堂々と言うべきと考えている。

**＜福祉基金による助成対象の取組みによる海外アートフェア出展について＞**

○　ベルギーのフェア出展を通じてどんな効果があったのか。

【⇒事務局回答】

アート関係者とのつながりが増える等の効果があった。

○　福祉基金による助成対象の取組みでは、優秀な作品や作家を発掘したとき、作家登録という形を取っているのか。

　【⇒事務局回答】

助成事業であり、行政での登録は行っていない。福祉基金による助成対象の取組みにおいても厳格な登録は行っていない。

○　来年度も海外アートフェアに継続して出展する意向は、今年度、福祉基金による助成対象の取組みを実施した者にあるのか。

　【⇒事務局回答】

意向はある。

○　販売実績が低かったフェアもあるが、こういうフェアにも引き続き出展していく意向なのか。

あくまで海外なのか。

【⇒事務局回答】

今年度の福祉基金による助成対象の取組みを実施した者は、事業そのものの継続の意向はあると認識。助成事業終了後の海外展開については、資金的な面も含めた実現可能性等を考える必要があると思われる。とはいえ、福祉基金による助成対象の取組みと府内各福祉事業所等との信頼関係が構築されてきていると思う。

○福祉基金による助成対象の取組みと府内各事業所等との信頼関係が構築されている点については、部会としても大いに評価。

○　海外フェア出展を契機としたプロモーションは実施しているか。また、反響が十分にあったと考えているか。

【⇒事務局回答】

　PRの経費が不足しており、多額の経費を要する薄く広いプロモーションにすなわち、反響に、いかにつなげるを、いかに経費をかけずに行うかは、課題。

○　具体的に何をPRするのか。

【⇒事務局回答】

　　まずは、公募展そのものの認知度を高め、そのことにより障がい者アートに関心を持つ人を獲得し、公募展に来場あるいは応募するという行動に移した人の満足度を高め、その満足度を共感に変えて、さらに公募展の認知度にフィードバックするという一連の活動がＰＲだと考えている。ＰＲ全体の効果を高めるためには、相当の認知度が必要だが、認知度を確保するには時間も経費もかかる。

**議題２　平成29年度の事業実施の方向性について**

資　　料：

　資料４　　平成29年度の事業実施の方向性について

資料５　　第７回公募展　募集要項（案）

**主な意見等：**

○　平成２９年度からは、ビッグ・アイと連携強化するとのことだが、募集チラシ案に、アート界のイチローを見出し、それが就労支援につながり、ひいてはそれが裾野を広げるということにつながるという、当部会のこれまでの考えをもっとしっかり書くべきではないか。

　【⇒事務局回答】

　　所要の記載してるが、これは作品募集のためのチラシであり、委員ご指摘の点は、別の媒体、広報の機会でしっかり説明していく。

○　ビッグ・アイ独自の公募展はは、これまでも実施していたのか。

【⇒事務局回答】

そのとおり。

○　ビッグ・アイとの連携による効果として想定されるのは、どのようなものか。

○　作家の「発掘」という点で、応募作品数の増加が見込まれるまた、審査を（国内作品は）すべて現物作品を行う。この点でもメリットがあると考えている。また、海外からの応募も対象としていることから、海外展開等にも有効。なお、府からの委託業務となることについては、チラシを配布する際に周知する。

○　今後の部会の意義、福祉基金による助成対象の取組みとの関係等はどうなるのか。この委員会は、公募展をやるためにあるわけではない。

○　大事なのは、福祉基金による助成対象の取組みでいまやっていること（府内の福祉事業所等とのネットワークの構築や技術的支援等）を、どう続けていくかだと思う。公募展は大阪府から手が離れてもいいと思う。それよりも、就労につなげるというコアの部分の継続が重要。

○　これまでのビッグ・アイの就労支援に対するスタンスは、如何に。

○　結果的に作品が売れることはあるが、それを目的にしているのではなく、いろんな選択肢があっていい、というスタンス。売りたい人、売りたくない人、２次利用をしてほしい人など、いろんな選択肢があっていいということ。

○　裾野を広くする舞台もあっていいと思うが、頂を高くする舞台もあっていいと思う。当初の目的は、頂を高くということであった。交通整理が必要。ビッグ・アイの委員会との関係はどうなるのか。

　【⇒事務局回答】

　　ビッグ・アイ委員会は、館全体のマネジメントのためのものであり、当部会とは一線を画する。福祉基金による助成対象の取組み

○　公募展が、海外・府外も対象になるということは、たとえば東京の事業者が福祉基金による助成対象の取組みに手を挙げることができるのか。

　【⇒事務局回答】

　　福祉基金の助成対象とはならないが、東京の事業者が同様の取組みを自主的にすること自体は、ウェルカム。

　　公募展よりも府内の福祉事業所等への支援しつつ、アーティストとして十分な活動のできる方々を一層輝かせることなどに注力すべきとのご意見も踏まえ、今後は、アートを活かした障がい者の就労支援事業も、福祉基金による助成対象の取組みのような機能や仕組みをつくることにシフトしていきたい。

○　国の障がい者芸術文化活動支援拠点として、様々なレベルの対象者を支援する必要があり、その考えでこれまでやってきた結果、アーティストとして十分に通用する方々も出てきたところ。これまでの積み上げを今後にどう生かしてしていくべきかを考えていく必要ありと認識。

○　公募展は、基本的に就労により確実に結びつけるためにも「障がい者」という言葉は用いないという議論があった。だから、府の公募展について、ビッグ・アイと連携するというのはむしろ良い方向。心配なのは、福祉基金による助成対象の取組みが終了した後の当該取組みの継続性の確保。そこに、これまで公募展に割かれていた予算・人員を持っていけるようにしなくてはいけないと思っている。

○　ビッグ・アイには、すでに実績があるので、連携強化することによって、新しい仕組みを作っていくべきではないか。世界への扉を開く、世界にも通用するアーティストを輩出するということに予算・人員を足していくことが、これまでの府の取組みを継続・発展させることになるのではないか。

○　これまでの福祉基金による助成対象の取組みの実績は報告していただいたが、この活動は、助成金がなくなると止まってしまうのではないか。そこで残るのは、実績と人材と経験。それをビッグ・アイとの連携強化による取組みで生かすことができるということになれば、よりよい成果を生み出すことができるのではないか。

　【⇒事務局回答】

　　ビッグ・アイと連携強化する趣旨は、ご指摘のとおり、公募展だけでなく、助成金終了後も、大阪府の施策として、制度的に府内の福祉事業所等への支援しつつ、アーティストとして十分な活動のできる方々を一層輝かせる等の仕組みづくりにある。今後、検討し・ご議論いただき、来年度中に結論を得たい。

○　トップスターをつくらないとなかなか裾野が広がらないという思いは同じ。ただし、そこだけをやってきたわけではないのも事実。発掘する土台はあるので、もっと素晴らしいアーティストが出てくる可能性も踏まえて、今後は、福祉基金による助成対象の取組みとの連携強化をゴールにおくべきだと思う。

◆事務局

　イチローをつくるためには、様々な段階での、厚みのある支援の仕組みが必要と考えている。

○　その考えは理解するが、この委員会がめざしているのは、イチローの支援。

○　もう裾野は十分広がっているのではないか。発掘したアーティストをいかに市場につなげていくかが大切で、そこに、力をいれていることが他の自治体へのメッセージにもなり、それこそが、このプロジェクトのレガシーだと思う。

○　先日、福祉基金による助成対象の取組みの報告会に参加したが、大変興味深い内容であった。７人の作家についても、国内から海外にという方も出てきている。そういう方々への支援が必要と感じた。ただ、絵画の購入者が誰なのかわからないということもあるのではないか。展覧会など後追いの必要が出てきた時に困るのではないかと感じた。

○　それはなかなかコントロールが難しい。画廊でも、直接販売した場合は相手が分かるが、その後、何年も経過すれば、所有者の把握が難しい。

**（まとめ）**

○　ビッグ・アイとの連携強化にあたっては、これまでの経過を踏まえつつ、効果的な事業運営に努めるほか、府内の福祉事業所等への支援しつつ、アーティストとして十分な活動のできる方々を一層輝かせるための仕組みを検討・議論していくとの方向性を確認。

**その他**

　府の障がい者施策関係の各協議会の役割・機能に係る整理に伴い、本部会の組織的な位置づけの変更およびそのための手続の必要性について、報告し、了承を得た。